

議会活性化特別委員会 経過報告

東郷町議会は、これまでともすれば見受けられた受動的な姿勢を改めて町政の中核たることを自覚し、その先頭に立つ気概を持って事に当たらなければならないと考えました。そのようなことから東郷町議会の一層の活性化を図るため、特別委員会を作りました。活性化特別委員会の下に四つの委員会で構成しています。以下各委員会のこれまでの活動報告です。（委員長 近藤秀樹）

広域行政等調査委員会

委員長 和英
委員 菱川 靖江
副委員長 道弘 克巳
委員 石川 秀昌
委員 石川 近石

広域行政等調査委員会では道州制に対応できる体制を考えるのがまず第一ですが、これから地方分権の名目で種々の仕事が増えてくるのに対応が対応するかが目的です。合併も視野に入れ、今、各市町で行っている国民健康保険、介護保険等、一体化できるものがないか近隣市町と話をしてみようとの思いもあるのです。今でも中部水道企業団、尾三消防、尾三衛生、日東衛生の一部事務組合が動いています。これらの他にもっと幅を広げることも可能であるとの思いから議会独自で活動を進めようとのことです。すでに三好町へ委員全員で行きました。三好町長、議会議長、副議長他の方々と面談した中で、ケーブルテレビが違うのでお互いの

町で何をやっているのかわからない、との話が出て、住民間交流の場を作るためにもお互いの町の広報紙に主な事業を掲載してはどうかとの話、巡回バスについて、過去の色々なきさつ等の話も出て、有意義な場が持てました。別

委員長 克巳
委員 箕浦 淳
副委員長 治良 剛志
委員 水川 洋三
委員 藤植 元原
委員 近拓 有門

のなかで今後の方針を考

えなければならぬ」と話をされています。今後は三好町と話をする場を何

議員定数が今のままで

良いかの声は、議会の内外を問わず耳にします。本町においても議会運営委員会

の場でも議論された経緯もありました。平成20年4月、議員定数等検討委員会が議会内の機関として活動することとなり

議員定数等検討委員会

されるものと考えます。町政施行昭和45年4月より定数22名。平成8年行政改革審議会より22名から18名への減少提案があり、翌9年3月議会内に定数検討委員会を設置されました。その結果、同9月議会に2名減の減少条例が議員提案され、継続審査のうえ可決。平成11年地方統一選挙から定数は20名とされています。委員から、定数を検討するに当たってさまざまな論点が見られました。今後慎重に議論を重ねていく予定です。

地方自治法は人口段階に応じて12人から26人の間で5段階の上限値を定めています。本町の上限値は26名で現在の定数は20名です。町民の求める議会活動の活性化のためどうすべきか検討を重ねてまいります。

政治倫理要綱検討委員会

委員長 雅夫
委員 中川 道弘
副委員長 達郎 正和
委員 山田 正和
委員 石川 菱

東郷町議会先例集によれば東郷町政治倫理要綱が制定されたのは平成16年8月4日のこととされています。

平成15年4月に行われた県会議員選挙で選挙違反事件が摘発され、当選したばかりの議員が辞任するという大きな事件がありました。

て議員政治倫理条例の制定が相次いでいます。要綱のように議員同士の申告せに限ることなく、条例として規制を厳しくする意図があるのではないかと。また各地の条例化した資料を見ると、議会の内部規制・自律によるばかりでなく、市民による監視や審査請求を条文化している条例もありました。

議会防災検討委員会は議会として、災害時の行動マニュアルを検証し、具体的な災害時対応ができるようにしていきたいと考えています。また東郷町の防災計画に係わる勉強会及

委員長 啓二
委員 加藤 憲治
副委員長 子夫 雅洋
委員 井保 洋洵
委員 山下 子夫
委員 中山 雅洋
委員 橋本 洋洵

議会防災検討委員会

び施設の見学を行ってまいります。手始めとして東郷町が行う水防訓練に参加しました。

6月8日、春木藪下地内境川河川敷にて水防訓練が実施されました。水防訓練とは水害時の被害軽減を図ると共に、水防工法技術の練習習熟を高めるものです。昨年度までは長久手町と合同で消防団が訓練をするというものでしたが、本年度より東郷町単独での開催となりました。

その後、平成15年末には、議員が役員を勤める会社が町と契約する場合の当局の対応が問題となり、議会として要綱を定める必要性が確認されました。東郷町議会の政治倫理要綱は、このように議会の反省と決意の表明として作られ、将来に引き継がれるよう求められているものです。

昨年から今年にかけて東郷町の近隣市町におい



東郷町徒歩帰宅支援マップは役場にあります

訓練は尾三消防本部、東郷消防署の指導の下、東郷町消防団各分団、町内各区各自地区役員、そして東郷町議会議員20名全員が参加しました。境川の堤防氾濫を想定し、土嚢づくりから土嚢の積み方、怪我人等の救護法や搬送方法その他ロープ結び等実践的な訓練に参加者全員が額に汗しました。防災意識の一層の向上を図れた訓練となりました。